

経済学研究における京大式フィールドワーク

翟 亜蕾 (東南アジア地域研究研究所 准教授)



ただ今ご紹介にあずかりました、翟亜蕾と申します。本日は、経済学研究における京大式フィールドワークについて、お話をさせていただきます。よろしくお願いします。

私は経済学を専門としていますが、所属は、東南アジア地域研究研究所です。東南アジア地域研究研究所は、京都大学の研究所の中でもかなり特徴的で、私のような経済学者以外に、人文、社会、歴史、政治はもちろん、情報通信から公衆衛生まで、様々な分野の専門家が在籍しています。そのみならず、私のような外国人研究者もたくさん在籍しておりまして、世界中から優秀な研究者を招聘して、実は所内での共通語が英語となっております。ご興味のある方はぜひホームページ、あるいはYouTube、Xなども随時更新しておりますので、検索してみてください。

私のプロフィールをご覧になった方も多いかと思いますが、簡単に、これまでのキャリアを中心にご紹介をさせていただきます。私は京都大学大学院に入学して、経済学研究科に在籍していました。しばらくイギリスのNGOのデータアナリストをして、その後は京都大学経済学研究科で助教を2年間、その後は信州大学経済法学部で3年ほど経済学を教えていました。そうです。去年まで松本にいました。お世話になりました。半年ぶりですが、皆さん、お元気ですか。今年もまた大雪だったようですが、皆さん、雪かき、大変でしたかね。

私は信州の雪景色が大変恋しいです。なぜかといいますと、私はほとんど雪の降らない中国雲南省の出身です。ここでいきなりクイズですが、雲南省ってどこなんだろう、ピンとこない方もいらっしゃると思いますが、雲南省はここですね。

第19回京都大学附置研究所・センターシンポジウム松本講演会

経済学研究における 京大式フィールドワーク

テキ アライ
翟 亜蕾
東南アジア地域研究研究所

翟 亜蕾 (テキ アライ)

京都大学東南アジア地域研究研究所 准教授

学歴・学位 経済学修士 & 博士 (京都大学)

職歴 国際NGO(英, Health Poverty Action) アナリスト

日本学術振興会 特別研究員

京都大学大学院経済学研究科 助教

信州大学経済法学部 講師・准教授



テキゼミ2022年課外活動(空き家改装)@長野県長和町



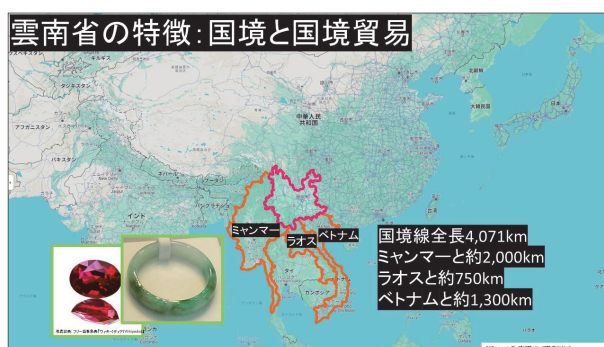
中国の一番南西部、標高が高くて、実に雪の降るところもあります。面積は日本よりやや大きい。一番大きな特徴ですが、この地図から見られるように、ミャンマー、ラオス、ベトナムと国境を接していて、国境線が非常に長く、海に囲まれている日本とは対照的です。

そのような地理条件をうまく利用して、歴史をさかのぼって、雲南省の人々は中国と東南アジアとの中継となって、塩、茶をはじめとする食料品や、日用品などを輸出入するような国境貿易と呼ばれるビジネスをしていました。

こうして国境貿易を通して、国境の向こう側からやってくる東南アジアの方々とは長い間、貿易をしていました。ただし、まさか自分が将来、研究者になって国境地域の経済学の研究をするとは思いませんでした。私はそれらの国々には全く興味がなかったのですが、でも1つだけ不思議に思ったことがあります。それは、私が中学生のころです。2000年代ですが、ご存じのように中国側は急速な経済発展を進んで、人々の生活水準がますます高まる一方で、国境の向こう側、東南アジアの国々の人々は貧しいままでした。あれ、こんなに近いのに、何でこの格差が生じるのだろうと不思議に思うようになったのです。

この不思議を解明してくれるのが経済学です。経済学の定義について、2001年のノーベル経済学賞受賞者のスティグリッツ教授の見解を紹介します。個人、企業、政府、その他様々な組織がどのように選択し、そうした選択によって社会の資源がどのように使われるかを研究する学問である、そうです。重要なのは、選択というキーワード、覚えておきましょう。

私は国境の向こう側の貧しい人々の選択について明らかにしたいから、研究者を目指すきっかけとなりました。



経済学とは

個人、企業、政府、その他さまざまな組織が、どのように選択し、そうした選択によって社会の資源がどのように使われるかを研究する学問である。

—『スティグリッツミクロ経済学 第4版』(2013年)

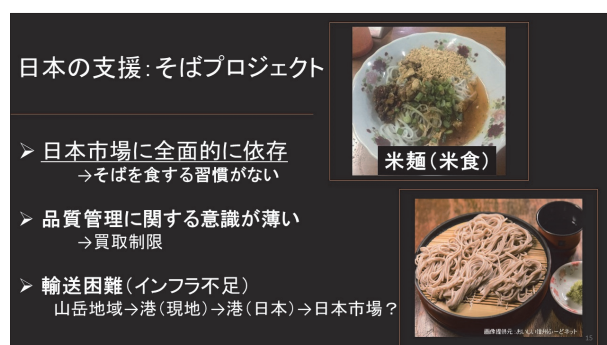
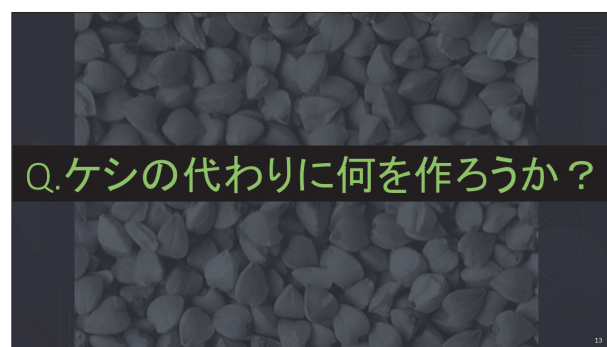
ジョセフ・E・スティグリッツ
コロンビア大学教授
2001年ノーベル経済学賞



国境の向こう側の貧困を見るには、まだまだ大変興味深いですよ。黄金の三角地帯、ゴールデン・トライアングルという言葉をご存じでしょうか。黄金の三角地帯の三角は、おおむねこちらの三角なのですが、ミャンマー、タイ、ラオスの北部、山間部ですが、実は2000年代まで世界最大の麻薬密造地帯でした。ケシを植えて、ケシから取れた汁を乾燥させたものがアヘンですが、このアヘンをさらに生成するとヘロインと呼ばれる麻薬が作られます。ケシはどこに植えるのかといいますと、このような、夏でも涼しい山の上に、何世紀にもわたって栽培されてきたといわれています。

しかし、2000年代前後に国際社会からの圧力の下で、現地もケシを撲滅しようとしたしました。ケシの完全撲滅というのは、ケシ栽培で生計を立てていた人たちにとっては壊滅的な危機です。なぜかといいますと、ケシ栽培以外にほかの選択肢がなかったからです。

ここで1つクイズですが、ケシ以外にもし何か作ってもらったら、何がいいですかね。ヒントとして、ケシは乾燥していて涼しい気候、山の上が好みだそうです。素晴らしい。そのほか、何かありますか。信州の方ならびたりと答えられる。「そば」ですね、素晴らしい。日本政府も信州の方々と同じ考えです。そばを導入しようと、この地域の麻薬撲滅のプロジェクトとして国際援助を行いました。しかし、結果はちょっと残念です。現地の人々には、そばを食べる習慣がないんですね。米で作った麺を食べる習慣はありますが、ソバを食べない限り、日本市場に全面的に依存してしまっ、そばプロジェクトは残念ながら失敗したのです。



山岳地帯って、農業に向いてないよね？

山岳地帯の荒廃農地(2014年)



でも、皆さん、思ったこと、ありませんか。山岳地帯って、もともと農業に向いていない？ 実際に、そば撤退後に、もともとケシ畑だったところはどうなったのかといいますと、何も作っていません。雑草だらけです。

農業は無理ですね。農業は無理ですが、ほかの産業でしたら、もしあなたが政策立案者の場合、どうしますか。工場を作って何か作ってもらうとか、そう考える人もいらっしゃると思いますが、ただし、忘れないでほしいのは、そばの失敗から学んだことです。インフラがない。技術がない。労働力の教育水準も極めて低くて、製造業を発展させるには、やっぱり無理があります。

でも、先ほども紹介したのですが、1つだけ大きな地理的な優位性を持っています。それは、中国と国境を接していて、行き来しやすいということです。実は、現地政府が1つの事実気付いたのです。それは、中国国内ではカジノが禁じられていて、ギャンブル好きな中国人は世界中のカジノであふれていることです。カジノなら行けるかも。

なぜかといいますと、国境を接していて、高速道路とか、鉄道、空港など、かなりコストの高いインフラは作らなくていいですし、カジノサービス業には高度な科学技術なんか必要ありません。さらに、カジノの接客ですから、あんまり教育を受けていない労働力も何とかなる。はい、決まり。現地政府は、ギャンブル目的の中国人観光客を誘致しようと、できるだけ国境ギリギリのところでカジノを開業しました。

カジノの導入は、ある意味では大成功でした。なぜかといいますと、その中で、雇用創出の効果がかなり大きいといえます。ただし、1つ注意すべきは、雇用のほとんどが平均年齢15歳の若

農業は無理ですが.....

Q.〇〇産業ならいける？

しかし、インフラ問題、技術問題、未熟練労働力.....

雲南省の特徴：国境と国境貿易



地域経済の起爆剤 ーカジノの振興

雇用創出効果大きい

若い未婚女性の大量採用(90%)
→平均年齢15歳の娘さんの出稼ぎ



い未婚女性です。じゃあ、カジノの振興による女性の出稼ぎは、貧困削減に有効かどうかを知りたいですね。

でも、肝心なのは経済学で、これらの問題に対してどうアプローチするのか。珍しい出来事をひたすら調査や記録をすることは、経済学研究者の仕事ではありません。

まず、貧困削減効果はどうやって測るの。経済学では、一般的にマクロ的に測る国や地域の貧困と、ミクロ的に測る家計や個人の貧困で分けられています。いうまでもないのですが、たくさんのギャンブル客が来てくれれば、もちろん国や地域の GDP が伸びるに違いありません。でも、問題は家計レベルの貧困なんですね。

出稼ぎの家計レベルの貧困削減効果について、これまで蓄積されてきた研究、いわゆる先行研究は、どういうふうに指摘されているのかといいますと、有効である可能性を指摘する研究が比較的に多いです。でも、経済学をはじめ社会科学なんか、多数決ではありませんよ。経済学の研究の中心となる選択というキーワード、まだ覚えていますか。選択は、研究対象によって異なるからです。

私の研究の対象となるのは、農村の若い娘さん。若い娘さんの家族にとって、皆さんに選択してもらいますが、家族にとって貧困削減に有効なのは、A、娘さんが実家へ送金しない。B、娘さんが実家へ送金する。どちらなのでしょう？ Bですね、もちろん。娘さんに送金してもらって、初めて貧困削減効果、出稼ぎの経済効果を感じるようになるかもしれません。

では、ここで実際のデータを使って、年間の送金金額の統計結果を見ましょう。横軸が送金の金額で、縦軸がその金額の送金を行った女性の割合です。例えば送金を全くしてない0ドルの人は17%ほど占めています。その結果は人それぞれです。送金する人もいれば、全然しない人もいます。たくさん送金する人もいれば、少ししかしない人もいます。

経済学のアプローチ

課題： カジノの振興による女性の出稼ぎは
貧困削減に有効かどうか

経済学のアプローチ：貧困の測定

- 国・地域レベルの貧困
GDP(一人当たりGDP)
貧困者比率(絶対貧困者比率)
- 家計・個人レベルの貧困
経済状況(可処分所得, 消費, 資産)

先行研究 出稼ぎによる貧困削減効果

有効である可能性

- メキシコのデータ
(Taylor et al., 2005)
- グアテマラのデータ
(Adams, 2004)
- フィリピン
(Yang & Martinez, 2005)
- ガーナのデータ
(Adams, 2016) など

vs.

有効でない可能性

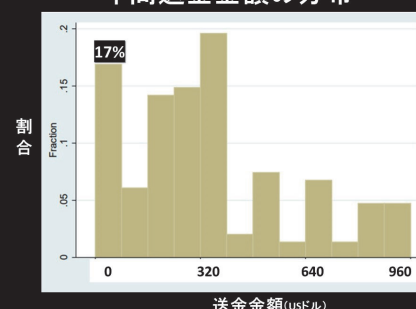
(Bernheim et al., 1986;
Hoddinott, 1994)

Q.家計レベルの貧困削減に有効なのは？

選択肢A: 娘さんが実家へ送金しない

選択肢B: 娘さんが実家へ送金する

年間送金金額の分布



しかし、重要なのは次のクイズです。貧困削減に有効なのは？ A、裕福な家計の娘さんがたくさん送金する。B、貧乏な家計の娘さんがたくさん送金する。もちろんBですね。貧乏な家計の娘さんが送金するかどうか、どれほど送金するのかはとても重要になってきます。

それも早速データで統計結果を見ていきましょう。こちらの散布図は、家計の貧富と送金額の相関関係を表しています。家計の貧富のインデックス、家計の貧富の指標が横軸で、縦軸が送金額ですが、右肩上がりの傾向ですね。つまり、貧乏な家計ほど、実は送金を受け取っていないんですよ。

何で？ ようやく今日の研究課題に到達しましたが、娘さんが送金しない、その動機とは何かを、経済学的に実証していきましょう。

その前に、経済学の実証研究のステップをご紹介します。ここまでの背景の紹介も含めて、今はやっと問題提起しているところなんです。問題提起してから、仮説を立てて、データを集めて、統計的・計量的に分析して、因果関係を識別して、最後に政策的示唆、いわゆるインプリケーションを提示していくステップなんですが、本日の講演では、仮説と結論を中心に紹介します。

念のためですが、まず仮説とは何かを簡単に説明します。仮に設定された説、仮の結論といいますが、具体的に例を挙げればより分かりやすいかと思います。例えば、貧しい家計の娘さんが送金しない動機の仮説として、3 つほど代表的な論説、いわゆる先行研究があります。まず、実家に残る子どもや資産の世話をしてくれる家族に送金する場合は、交換動機と呼ばれています。実家に残る資産や子どもが多いほど、多く送金されると指摘されています。次に、返済動機という仮説もありますが、親が出してくれた養育費や教育費、出稼ぎの初期費用などを返済するパターンですが、交換動機と同じように、やっぱり

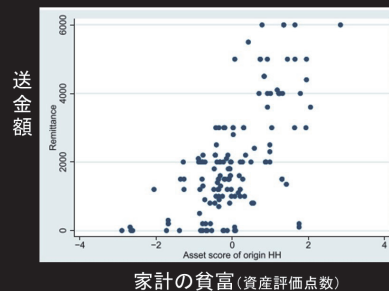
Q. 貧困削減に有効なのは？

選択肢A: 裕福な家計の娘さんがたくさん送金する

選択肢B: 貧乏な家計の娘さんがたくさん送金する

27

散布図でみる仕送りと家庭資産の関係



28

なぜ貧しい家計からの娘さんは送金しない？

研究課題:

娘さんが送金しないと決める動機とは？

29

経済学の実証研究のステップ

問題提起(研究課題) **ここ！**

→仮説をたて

→データを収集

→統計的・計量的分析

→因果関係を識別(結論)

→インプリケーション(政策的示唆)

30

仮説(hypothesis)とは？

「仮の結論＝仮説」

事象や法則について説明するために
仮に設定された説のこと。

31

豊かな家計ほど多く送金されます。さらにもう1つ、相続動機とありますが、送金を子どもが親の遺産を獲得するための手段として捉えています。この相続動機も、相続できる資産が多いほど多く送金されるといわれています。

ここまでの仮説の紹介で気付いた方もいらっしゃるかと思いますが、例えば、交換動機は、1987年にコックスさんという学者によって指摘されたのです。つまり、大昔、およそ40年前に既に指摘されたわけです。研究者、あるいは研究者を目指している人にとって一番痛感するだろうと思いますが、いいアイデアを思いついたと思って、わくわくしながら論文などを検索してみたら、もう既に検証されているんです。99.9%の確率で。しかも40年前にですよ。これで挫折してしまって、諦めた大学院生はたくさんいるかと思いますが、諦めずに地道な努力を続けるメンタルが、いわゆる、午前中のサルから学んだこと、鈍感力といいましょうか、それが研究者として必要不可欠だと考えております。

でも、例えば私の研究の対象、若い娘さん、まず子どもはいないし、資産もほとんど持っていません。だから交換動機としては考えられません。また、そもそも貧困な家庭では、娘の養育費などの出費も極めて低いというのが一般的に観察されますので、返済動機としても説明しきれない部分があるのではないかと考えます。最後に、相続。途上国の農村地域では、娘さんなんかは相続権を与えませんよ。だから、遺産相続を目的とする動機も考えにくくなります。

従って、先行研究では取り上げられていない動機があるのではないかと考えます。ここで登場するのが、京大式フィールドワークです。

私が京都大学に入って間もなく、この『京大式フィールドワーク入門』という本を読みしました。なるほど、長期調査と地域の全体像を把握することが重要だとうのみしてよく理解できませんでした。10年もたって今少し理解できるようになってきたので、皆さんとシェアしていきたいと思います。

神は細部に宿るという有名な言葉がありますが、私はフィールドワークの重要性、必要性について、神は細部に宿ると理解しています。つまり、細部にこだわった丁寧な調査と分析が必要なんです。それを、私の研究を例に具体的にいいますと、途上国、特に農村部では、様々な慣習と社会的規範が人々の選択に大きく影響します。もちろん、その中に合理的な部分もあれば、一見して不合理に見える行動も、例えば貧しい家計の娘さんは送金しないといったようなこともしばしば観察されます。

良い仮説: 貧しい家計の娘さんが送金しない動機

- 交換動機仮説 (Cox, 1987; Cox et al., 1998)
実家に残る子供や資産の世話をしてくれる家族員に送金する
- 返済動機仮説 (Poirine, 1997; Ilahi & Japfarey, 1999)
親が出してくれた養育・教育費や出稼ぎの初期費用を返済する
- 相続動機仮説 (Bernheim et al., 1986; Hoddinott, 1994; De la Briere et al., 2002)
送金を子供が親の遺産を獲得するための手段としてとらえる

※ 貧しい家計からの労働者ほど、送金する動機、利他的動機 (Lucas & Stark, 1985; Stark, 1999; Agunwal & Horowitz, 2002; Osk, 2007); 投資動機 (Aldberg & Brown, 1998; Blau, 2004); 相続動機 (Cox et al., 1998; Gubert, 2002) 等。

32

京大式フィールドワーク

「フィールドに密着した長期調査と、自然と文化そして歴史が織りなす地域の全体像を把握・・・」

『京大式フィールドワーク入門』
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究
研究科・京都大学東南アジア研究所 編



33

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・京都大学東南アジア研究所 編/
京大式 フィールドワーク入門/NTT 出版

経済学における京大式フィールドワーク

「神は細部に宿る」 *アビ・モーリッツ・ヴァールブルク(美術史家)
ミース・ファン・デル・ローエ(建築家)

→既存の一般的な統計に表れない細部まで調査・分析

例: 多様な慣習や社会規範(婚姻、生育、信仰)
親族・姻族関係(家庭内交渉、家長の権威)
生産(技術習得、労働力調節方法)
生活(消費、投資)

34

その不合理な行動も、実に一般的な傾向として理解できて、ほかの地域や国にも適用される可能性が非常に大きいです。例えば、結婚持参金をご存じの方は、どれほどいるのでしょうか。はい。私の研究の対象地域をはじめ、南アジア、東南アジア、東アジアの一部の農村では、いまだに結婚持参金という慣習が残っています。結婚持参金は何かといいますと、結婚する際に、花嫁の家族が花婿の家族に持参金を渡すという慣習なんですね。問題は持参金の額です。結婚する両方ともが納得するような金額でないと、そもそも結婚は成立しません。そうすると、必然的に貧乏な家計の娘さんに、経済状況の良い結婚相手を探してあげたくても無理があります。結婚持参金を用意できませんから。じゃあ、貧乏な家系の娘さんも、親にいい結婚相手を探してくれるとは期待していません。

従いまして、私は、出稼ぎ女性の送金行動を、彼女たちの今後の人生設計、つまり結婚相手の選択と関連しているのではないかと仮説を立てたのです。それは、神が宿る細部までの調査と分析があってこそ立てられる仮説だと自負しております。でも、仮説は立てて終わりじゃなくて、検証して結論を出す必要がありますね。仮説の検証に向けて、第一歩はデータを収集することですが、今日は詳しく紹介できませんが、厳密な調査地域の選定をしてから調査したい村や家計も事前に決められた方法で選出します。それはランダムに選定しなければなりません。このサンプリングの段階で失敗してしまうと、後の検証も全く意味がなくなってしまうので、学術的な研究としても評価されなくなります。

また、フィールドワークにおいて、フィールドワークをするようになってから心掛けていることを皆さんにシェアしていきたいと思っています。

まず、ちょっと大げさかもしれませんが、一番知ってもらいたいことは、対価を支払う



Q. 結婚持参金？

結婚持参金の慣習 花嫁が嫁入りに持参する現金・資産

理由 女子が家計の負担となる

(結婚によって負担を負う花婿側に資産が移動する)

出典: 柳野 昌彦 (2022) 「結婚持参金と結婚——タワラーと極端の貧困による選別」アジア経済研究所研究報告書 10-2022-003-049

https://www.ide.go.jp/japanese/Research/Column/20220003/20220003_049.html

相場 裕福な家計: 平均100万円 (出稼ぎの娘さんの年収の3倍程度)
貧乏な家計: 最低40万円 (100万円は望ましい)

私の仮説

問題: 「貧しい家計の娘さんが送金しない動機」

「神は細部に宿る」

仮説: 「今後の人生設計 (結婚相手の選択) が送金しないことと関連するのでは？」

経済学の実証研究のアプローチ

問題提起

→ 仮説をたて

→ データ収集

→ 統計的・計量的分析

→ 相関関係と因果関係の識別 (結論)

→ インプリケーション (政策的示唆)

データ収集: 厳密なサンプリング方法

サンプル村: ① 出稼ぎへの依存可能性 (7ヶ村)
② 都市部の出稼ぎ先への同日往復不可 (出稼ぎ労働者は最大年に2、3回しか村に戻れない)

サンプル家計: 出稼ぎあり: 178 家計

出稼ぎ無し: 78 家計

サンプル女性: 172名 → 147名

① 出稼ぎ経験: 一年以上
② 2014年にラオカイ都市部で10ヶ月以上住み続けた

共通点

出稼ぎ先: ラオカイ
職種(産業): カジノ
賃金水準: 約200ドル/月
婚姻状況: 未婚
世帯主との関係: 親と娘

相違点

家族背景のみ

Well "controlled" natural context

ことです。でも、この対価について勘違いして、相手の時間や、労力、コストをついつい日本円で計算してしまう人もいます。その何が問題なのかといいますと、途上国の農村の賃金を日本円で計算してしまうと、時給 10 円とか、ありえないほど低いのも当たり前ですね。でも、相手の 1 時間に 10 円の価値しかないと過小評価してしまうと、経済学者としては失格です。もう 1 つは、時間に対して対価を支払う一例なんですけど、私は手土産として、いつもフィールドワークに行く際に、これを大量に持っています。これは意外かもしれませんが、粉洗剤です。フィールドに行く際には、直接現金を渡すのは、場合によって失礼にあたるかもしれませんので、現地の人に喜ばれるような実用性のあるものを、まず下調べをしておきましょう。現地の人々は、私たちの好奇心のために時間や労力を費やすような義務が 1 ミリもありませんから。

また基本の基本なんですけど、敬意と尊重なんです。たまたま、いいことをしてあげているというような変な優越感とか、こうするほうがいいんですよといったような上から目線とか、現地の方に嫌われる調査員や研究者も実は少なくありません。嫌われてしまうと、もちろん二度と相手にされないし、人間としてもどう評価すべきなのか。

最後に長期調査が必要なんですけど、長期調査に信頼関係を築くには、相手の立場になって相手を優先する必要があります。苦にならない範囲で結構ですので、現地のイベントも積極的に参加することをお勧めします。こちらの 2 枚の写真なんですけど、現地の民族舞踊を一生懸命踊る私は、ここと、ここにいます。何回もいますが、現地の人は私たちの好奇心のために時間や労力を費やす義務なんか 1 ミリもありません。

はい。こうしてようやくデータを集めてきました。次のステップ、統計的・計量的分析では、モデルの構築と、検証を試行錯誤しながら行います。モデルの構築ができて、因果関係を識別しますが、これらが、実は経済学の本領を発揮するようなステップなんですけど、今日は時間の関係で識別の結果だけご紹介いたします。

まず私の仮説のとおり、結婚持参金を期待していないから、貧乏な家計の娘さんは送金しないという選択をします。でも、もう 1 つ重要なのは、送金している娘さん、送金していない娘さん、

京大式フィールドワーク

- 対価を支払う(相手の時間・労力コストを日本円で計算しない!)
- 敬意と尊重(優越感を持たない!)
- 信頼関係(住み込み、イベント参加、臨機応変)



経済学の実証研究のアプローチ

問題提起(研究課題)

→仮説をたて

→データを収集

→統計的・計量的分析

→因果関係を識別(結論)

→インプリケーションを指摘

統計的・計量的分析 モデル構築と検証

Empirical Strategy: Remittance decision

- Cragg's hurdle model: allow different parameters to govern
 - Whether to remit

$$\Pr(s_i = 1 | X_i) = \Phi(X_i \gamma)$$
 - How much to remit

$$y = X_i \beta + u_i \quad \text{if } y > 0$$
- Conditional expectation of y given $y > 0$:

$$E[y_i | X_i, y_i > 0] = X_i \beta + E[u_i | u_i > -X_i \beta] = X_i \beta + \sigma \lambda \left(\frac{X_i \beta}{\sigma} \right)$$
- where $\lambda(\cdot) = \phi(\cdot) / \Phi(\cdot)$ is the inverse Mills ratio.
- Conditional expectation of y :

$$E[y_i | X_i] = \Phi(X_i \gamma) \left[X_i \beta + \sigma \lambda \left(\frac{X_i \beta}{\sigma} \right) \right]$$
- Expected partial effect of x_k on the remittance level y_i :

$$\frac{\partial E[y_i | X_i]}{\partial x_k} = \gamma_k \Phi(X_i \gamma) \left[X_i \beta + \sigma \lambda \left(\frac{X_i \beta}{\sigma} \right) \right] + \Phi(X_i \gamma) \beta_k \left[1 + \lambda' \left(\frac{X_i \beta}{\sigma} \right) \right]$$

送金額の決定要因とその分解(Decomposition)

	(1) Remittance	(2) Remittance	(3) Remittance
Asset score of origin HH	1046.30***	372.30***	365.79***
Expectation for dowry payments	666.96	(79.26)	(80.55)
	1607.76***	1577.07***	
Control	No	Yes	Yes
Observations	147	147	145
Decomposition			
Migrant's income		0.01	0.01
Schooling years of migrant		0.03	0.03
Economic support from parents		0.14	0.14
Remittance request from parents		0.03	0.03
Expectation for dowry payments		0.40	0.40
Back to family during conflict			0.01
Unexplained		0.39	0.38

貧困家計の娘さんは結婚持参金を期待していないから

2人の給料は変わらないんですね。じゃあ、送金していない分、貯蓄するのか、それとも消費してしまうのかも重要な選択となります。実際には、娘さんが貯蓄していない、送金もしていない、たくさん消費してしまっています。そのメカニズムをまとめますと、裕福な家計の娘さんは将来、親からある程度経済状況の良い結婚相手をアレンジしてもらえると期待して、家族とのつながりを維持するために送金をしています。それとは対照的に、貧乏な家計の娘さんは、親が紹介してくれそうな結婚相手も、どうせ同じ貧乏な家計の息子さんですから、もう諦めて、国境の向こう側の中国人男性を狙って、自分のため婚活のための投資、具体的にはかわいいお洋服を買ったり、スマホを買ったり、出会いの場としてカラオケバーとか居酒屋に行ったりするような消費を優先することが分かりました。つまり、中国人男性と結婚できれば、結婚持参金をまず要求されない。自分1人なんだけど、貧困から抜け出す可能性が高いわけですね。

その結果、この地域にとって、課題に戻りますが、カジノの振興は貧困削減に有効なのかといいますと、実は貧困家系の娘さんが送金しない限り、その効果がとても限定的だといわざるを得なくなります。

最後に、今日のストーリーで何を伝えたいかといいますと、途上国では、先ほど紹介したように、外部による政策の介入、そばプロジェクト、それから内部によるカジノの振興といったような政策、実は思いつきの政策が意外と多いです。つまり、国民の生活を大きく左右するような重要な決断が安易にされてしまいます。それは、途上国に関して研究の成果が少ないのであれば仕方ないことかもしれませんが、でも実に研究成果、研究蓄積が多くあります。残念なのは、貧困開発の現場では、あまり活用してもらえていません。その原因について、私は研究のストーリー性が欠けているため、現場の人に理解してもらえないからなんじゃないかと考えております。

従って私は、研究の細部と全体像の関係を把握して、そのストーリー性を京大式フィールドワークと定義して、今後も実践していきたいと考えております。

個人消費と貯蓄の決定要因とその分解 (Decomposition)

貧困家計の娘がたくさん消費する(洋服, スマホ, カラオケ)

TABLE 4. Consumption and savings levels

	(1)	(2)	(3)	(4)
	Total consumption	Total consumption	Migrant's savings	Migrant's savings
Asset score of origin HH	-0.05414**	-0.07360***	0.01401**	0.01391**
Expectation for dowry payments		-1502.41***		-95.63
		(299.59)		(241.38)
Control	Yes	Yes	Yes	Yes
Observations	147	147	147	147
Decomposition		-0.20		0.14
Migrant's income				
Schooling years of migrant		0.04		0.07
Economic support from parents		0.13		0.02
Remittance request from parents		0.01		-0.05
Expectation for dowry payments		0.34		-0.06
Unexplained		0.67		0.88

結婚持参金が決め手

送金・消費の意思決定と結婚との関係

- 比較的に裕福な家計出身の女性
親に経済条件の良い結婚相手をアレンジしてもらえる
⇒ 家族のつながりを維持する
⇒ 送金する
- 貧乏な家計出身の女性
親がアレンジしてくれる結婚相手は貧しい男性のみ
⇒ 伝統的な結婚市場から脱出
⇒ 将来の結婚相手を探すための「婚活」へ投資する
⇒ 消費する
⇒ 送金しない

結論:

カジノの振興(による出稼ぎ)の
貧困削減効果が限定的である

まとめ

京大式フィールドワーク

≡

研究のストーリー性
(細部と全体図の関係)

最後にですが、先ほど見せた写真です。ケシ畑だった三角地帯の写真なんですが、2016年にまた調査に行った際に、土砂崩れに襲われて右側の写真を撮りました。ケシを栽培するころに森林を全て破壊してしまったせいで、今も土砂崩れや土石流などが頻繁に起きています。貧困問題を解決していくには、農学、地理学、防災関連の工学などの人材が求められています。学生の皆さん、経済学に関心がなくても、東南アジア、特定の地域に関心がなくても、ほかにそれらの分野の人材になることを目指していただいて、京大に来ていただきたいと願っております。

本日のストーリーが少しでも参考になれば幸いです。これで私のお話を終わります。ご清聴ありがとうございました。

今後の途上国貧困削減について



ご清聴ありがとうございました!

テキ アライ
翟 亜蕾

京都大学東南アジア地域研究研究所